

科目名	英語圏文化特殊研究	担当者	マツオカ 松岡 ナオミ 直美	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>2017年ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの小説を精読し、人間の認識に揺さぶりをかける文学の力を理解することを目的とする。スウェーデン・アカデミーは「世界とつながっているという幻想的な感覚にひそむ深淵 (the abyss beneath our illusory sense of connection with the world)」をあらわにしたことを授賞理由としたが、これをイシグロのポストモダニズムの手法と合わせ、確認する。英文学の伝統を継承しつつ、世界文学を具現するイシグロの小説群を読み解くことで、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力、世界の現状を理解し、説明する力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 メタ・フィクション、ジャンル小説、パスティシュ、間テクスト性、信頼できない語り手など、イシグロのポストモダニティを読み解き、その特徴と文学的効果を理解する。さらに、構築された空想物語に、戦争協力の責任、植民地主義の超克、利己主義故の差別や迫害、個人及び集団による歴史の改ざんと忘却といった社会と個人との関わりについて問題提起がなされていることを理解する。こうした、正に今日のかつグローバルな問題について議論するための倫理的かつ公正なリテラシーを修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 イシグロの虚構世界を彷徨することで、そこに埋め込まれた根本的問題の理解に至る。その前提として多層的な英語テキストを正確に読み解く力を養う。先行研究及び社会・時代状況を踏まえて、学術的批評論文を執筆するためのスキルを高める。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲 (教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15 時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を行う。レポート作成にあたって、草稿から最終稿に至るまで、履修者と担当者間で質問やコメント、添削や書き直しを繰り返す。こうした「対話」のために積極的な学びへの取組み—アクティブラーニング—を求める。さらに、manaba folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題に関する意見交換を行う。完成したレポートについても相互評価を行う。</p> <p>【学修方略 (LS)】 レポート作成にあたって、1) 先行研究及び関連資料の取集と評価を行う、2) 論旨をまとめる、3) レポート構成を決める、4) 論旨のサポートに必要な資料を選択し、挿入する、5) 本論を執筆する、6) 改編・改定・修正を行う、7) 注および参考資料一覧を作成する。こうした作業をレポート提出システム manaba を活用して行い、学修ポートフォリオを作成・累積する。</p>		
スケジュール	<p>前期： 7月中旬までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 レポート課題(2)については9月中旬までに最終稿を提出。 後期： 11月中旬までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 レポート課題(2)については2018年1月の課題提出締切日までに最終稿を提出。</p> <p>通年 30 コマ分 (半期 15 コマ分) の内容については、manaba にて掲載予定。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	<p>教材を精読理解し、先行研究等関係資料を参照し、課題に答える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。 レポートの内容 (構成、論旨、引用文献、独創性) : 50 % 提出状況 (期限の順守、初稿から最終稿までの改善度等) : 30 %</p>
	平常評価	20 %	<p>メールや manaba を活用して積極的に課題に取り組んだか評価する。通年 30 コマ分のうち、1/5 以上欠席相当と判断した場合、成績評価は 0~60 点とする。</p>
履修者への要望	<p>レポート作成は博士論文執筆に向けての重要な準備プロセスである。原語テキストを精読することが最優先課題だが、適宜、日本語訳を参照してもよい。先行研究については、検索・収集・評価を行い、これらを起点、あるいはサポートとして自らの考察を深め、自らの言葉で議論し、論文に纏めていくことが重要である。レポート1編ずつに真摯かつ丁寧に取り組むことで、論文作成のための思考能力と技術を高めてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Kazuo Ishiguro 教材名： <i>The Remains of the Day</i> . 1989. ISBN-13: 978-0571258246 1,268 円+税 (Paperback)
	貴族の館を舞台とする英国物語・執事ものの体裁だが、根本はナチ協力的主人に無自覚に服従した召使—everyman—の責任を問う心理小説である。古き佳き時代の英国、英国貴族の世界観、いずれもが 20 世紀に至っては幻想であるのだが、それに幻惑された人間の悲哀が信頼できない語り手の手法で緻密に描出されている。
参考図書	Gibaldi, Joseph. <i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> . 7th Ed. Modern Language Association of America, 2009. ISBN:978-1-60-329024-1 2,904 円+税 (Paperback)
履修上のポイント	本作に先行する <i>An Artist of the Floating World</i> (1986) は同時代の日本を舞台とする日本物語で、同じく個人の戦争責任を取り上げている。両作品を比較考察することによって、イシグロの虚構世界の組立て方および信頼できない語り手の技法についてもよりよく理解できるであろう。また、 <i>The Remains of the Day</i> は映画化、舞台化もされているので、鑑賞を勧める。異なる媒体を参照することによってもイシグロの語りが文学的に高度なものであることが納得できよう。
レポート課題 1	教材を精読し、いわゆる「英国物語」＝「英国という幻想」がどのように構築されているか論じなさい。(3,000 字) 留意点： イシグロは伝統的な貴族物語だけでなく、風刺作家 P.G. ウッドハウスのジーズ・シリーズなども参照しているのだが、そのような既成の物語や幻想をいかに借用、再利用しているか、さらに、それらをいかに転換、変容させ、現代の物語としているかにまで考察を進めること。
レポート課題 2	教材を精読し、「信頼できない語り手」のナラティブを解説し、評価しなさい。(3,000 字) 留意点： ヘンリー・ジェイムズの『ねじの回転』(1898) など、「信頼できない語り手」小説の系譜を参照しつつ、イシグロのナラティブの特徴を比較考察すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Kazuo Ishiguro 教材名： <i>Never Let Me Go</i> . 2005. ISBN-13: 978-0571258093 1,380 円+税 (Paperback)
	既に過去となっている 90 年代英国を舞台とする近未来小説である。クローン人間を培養育成して人間の臓器移植に供するという社会—既に出現しているディストピアであるが—を学園ものの体裁とクローン人間の「信頼できない語り」によって描き出している。社会制度としての教育が人間に他者化、差別、迫害を教え込む過程を明らかにしつつ、このような社会制度と個人の相克を内在化し、議論と考察を促している。
参考図書	Gibaldi, Joseph. <i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> . 7th Ed. Modern Language Association of America, 2009. ISBN:978-1-60-329024-1 2,904 円+税 (Paperback)
履修上のポイント	SF、ディストピア物語、学園物語を掛け合わせた虚構が提起する問題、およびクローン人間 キャシー・H という語り手の問題を読み解くこと。本作も映画化され、また日本では TV ドラマ化もされているので、これらを鑑賞し、参照することを勧める。
レポート課題 1	SF、ディストピア物語、学園物語の系譜に照らして、 <i>Never Let Me Go</i> の虚構性を論じなさい。(3,000 字) 留意点： SF、ディストピア物語、学園物語との近似性と相違を検証すること。
レポート課題 2	英語テキストを精読し、キャシー・H の語りを分析しなさい。彼女のナイーブな語り語り明かされる真相とのギャップを読者はどう受け止め、理解するのか考察しなさい。(3,000 字) 留意点： 原文を精読し、キャシー・H の認識の限界、自己欺瞞、道義的責任について、他の登場人物とも比較しながら、考察すること。